

国際地学オリンピック日本大会を終えて

久田健一郎¹⁾

国際地学オリンピック日本大会が、参加 26 ヶ国・地域、選手 100 名を集めて、平成 28 年 8 月 20 日から 27 日まで三重県において開催されました(第 1 図)。国際地学オリンピックは、科学オリンピックの一つで、地学のほか、数学・情報・生物・物理・化学・地理があり、世界各国から選抜された高校生が集い、それぞれの知識・思考力を競う大会です。スポーツのオリンピックと同じように、金、銀、銅メダル獲得を目指します。

“Our Future : Earth & Space” (地球から宇宙へそして未来へ) が、私たち国際地学オリンピックを開催するにあたっての合言葉でした。「地学」という学問は、対象が地球と宇宙ということで、ほかの科目に見られない時間的かつ空間的スケールを有しています。太古の地球、そして数万年後の未来の地球。また、足元の石から地球を、そして宇宙へといざなう学問です。

今回の日本大会を開催するにあたり、どのような大会を目指すかは、その開催準備に携わる私たちの最大の課題でした。今回で第 10 回を迎えるということで、ひとつの節目を迎えます。第 2 回国際大会から連続して参加してきた経験から、今までの大会を振り返り、「この点を伸ばしたい」という部分はより充実させ、修正すべき点は修正して日本大会を実現させたいという思いが強くありました。もちろん、「オリンピック」ですのでコンペティションであることは当然ですが、一方で、地学という学問が持つ特性を社会にアピールするにはどうしたらよいか、ということが重要だと考えました。

地学という分野は、その対象が一つの国のみではなく、より広範囲に及ぶことが多いため、このような分野を将来支えていく人材は、国際規模で活躍できることが必要です。地学オリンピックでは、単に知識を競うだけではなく、若人が国際交流を通じて世界に目を向け、広い視野を養う機会を提供したいと考えています。

この理念のもと、大会公式イベントには、国際協力野外調査 (ITFI) や地球システムプロジェクト (ESP) があります。国籍という枠をはずし、国籍に関係しない混合チーム (7 ~ 8 人) を作り、チームが協力して与えられた課題に

チャレンジするというものです。そして、チームごとに成果を発表し、審査員の評価を受けることになります。このような混合チームによる活動は、地学自体が国際規模の学問で、国際協力なしにはあり得ないという教育理念に基づくものであります。

すなわち、国際地学オリンピック=コンペティション+国際的人材育成というコンセプトで、今大会を創り上げたのです。

1 週間という限られた日程(第 1 表)の中で、「各国から選ばれ集結した参加選手の知の祭典であると同時に、国の枠を取り払って選手同士の交流を図りたい。さらには、参加選手の枠を超えて、地元の高校生(総勢約 230 名)と直接交流することを通じて互いを知り、理解し、触発される機会としたい」という願いを具現化した大会でもありました。参加した高校生たちの生き生きした様子を写真でご紹介しましょう(第 1 図)。

国際地学オリンピック日本大会に参加した高校生達は、もちろん各国の競争を勝ち抜いてきた優秀な高校生達です。彼らは日本大会に参加して、日本の歴史・文化はもちろんのこと、日本の自然災害(地震や火山噴火、台風や集中豪雨など)の一端を知ってくれたのではないかと思います。彼らは自国に戻り、折に触れ学校の友達や家族にそれらの話をし、日本で学んだ地学の重要性を広めてくれることを期待しています。まさにこれが、21 世紀の持続可能な環境づくりの交流第一歩になるのではないのでしょうか。一人ひとりの子供達が自然に接し、不思議に感じ、興味の赴くまま自ら学ぶ、地学オリンピックはその入り口を、そしてその先の世界への後押しを続けたいと考えております。

なお、大会の詳細は第 10 回国際地学オリンピック(日本大会) 報告書 (<http://www.jeso.jp/download/pdf/ieso-report-10th.pdf> 2016 年 11 月 1 日確認) をご覧ください。

1) NPO 法人地学オリンピック日本委員会理事長

キーワード：地学オリンピック、地学教育、自然科学、普及活動



第1図 国際地学オリンピック日本大会(三重)の様子。

1: 開会式の日本チーム(代表選手4名, オブザーバー選手5名), 2: 宇治山田商業高校生との交流会, 3: 三重県宣言内容検討, 4: 三重県高校生実行委員による三重県総合博物館案内, 5: 木本高校生との合同ITFI(熊野市鬼ヶ城), 6: ITFI発表に向けての準備, 7: ITFIの口頭による発表会, 8: 審査委員を前にしてESPのポスター発表, 9: さよならパーティーのひとつ, 10: 閉会式直前の全選手集合。

第1表 第10回国際地学オリンピック大会日程.

2016年	
8/20(土)	各国代表到着(中部国際空港, 関西国際空港)
8/21(日)	防災講座, 開会式, ウェルカムイベント@三重大学三翠ホール (午後)見学(伊賀上野) (夜)初対面ミーティング
8/22(月)	三重県立宇治山田商業高校生徒との交流 見学(伊勢神宮) (夜)三重県宣言検討
8/23(火)	筆記試験(午前2時間・午後1.5時間) 地球システムプロジェクト(ESP)説明, 三重県総合博物館見学 (夜)ESP作業
8/24(水)	実技試験(A班午前野外, 午後三重大, B班午前三重大, 午後野外) (夜)国際協力野外調査(ITFI)説明
8/25(木)	ITFI@熊野地域(鬼ヶ城, 七里御浜) 三重県立木本高校生徒との交流 (夜)ITFI発表準備
8/26(金)	(午前)ITFI発表準備 (午後)ITFI, ESP発表 (夜)さよならパーティー@ホテルグリーンパーク津
8/27(土)	記念撮影 表彰式・閉会式 三重県宣言



久田健一郎 (ひさだ けんいちろう)

東京生まれ, 筑波大学地球科学研究科修了(理学博士). 1982年大阪教育大学助手, 1987年筑波大学地球科学系講師. 専門は地層学, 地圏変遷科学, ジュラ紀付加体地質学, 最近は石器地質学. 現在, 筑波大学生命環境系教授, 日本地学教育学会会長, NPO法人地学オリンピック日本委員会理事. 趣味はサッカー観戦.

HISADA Ken-ichiro (2017) Report of the 10th International Earth Science Olympiad, Mie, Japan.

(受付: 2016年11月1日)